

運転手のバイトで、某NPO団体を乗せて岩手県沿岸北部の久慈市から仙台市まで被災地の復興状況を見てきました。復興事業が進み、何処が津波の被害に遭ったのか分からなくなってきておりました。他の被災市町村を見ると本当に大槌の復興事業の遅さが際立つというか、取り残されている感じがします。町の職員はいまだ他県、他市町村からの応援職員に頼りきり、自分達で何とかしようという気概が感じられないのです。

さて、私はドライバーなので黙って運転しておりましたが皆の会話を聞いていると視察というのは名目で只の観光だと思ってしまいました。震災当時、被害を受けた場所に留まらず、全然被害の無かった内陸部の観光地に立ち寄る事が多かったのです。当時は真面目に支援活動をしていた団体ですが震災から7年も経つと支援活動も減り、余った予算を如何にして消化するかを考える様になってしまったのです。予算が余ったら返納するか翌年度に繰越して無駄を省くという事は出来ないのでしょうか。行政と同じですね。

この視察名目の旅行中、私が本気で腹が立った事がありました。宿泊先で親睦会（飲み会）が行われた時、宴もたけなわになった頃、W氏が突然、

「小川さん！被災者はいつまで被災者を気取ってんの！いい加減に自立しなければ復興なんて出来ないんだぞ！」

と言いました。最初はまた始まったくらいに思っていたのですが、しつこいのです。何度も何度も同じ事を言い続けられ、さすがに温厚な私もブチ切れてしまいました。

「アンタの言う被災者って俺の事か？自立していないってどういう事だ？確かに自宅も生活も再建できていないけど、アンタに何か迷惑を掛けたか？俺がアンタに助けてくれって頼んだか？ある日突然津波で全てを流され何もかも失った人の気持ちがオマエに分かんのか！ふざけんな！バイト代も何も要らねえよ！二度と俺に連絡すんな！」

と言ってしまいました。本当に帰ろうとしたら他の皆が止めに入りましたが、私もここまで皆の前で声を荒げたのは初めてだったので皆、驚いた様子でした。

W氏は

「小川さんの事じゃないよ」

とトーンダウンしていましたが例え私の事でないとしても、酒の席だったとしても言って良い事と悪い事があります。こんな奴が被災者の心のケアだ何だと言っても信用できません。余計に悪化してしまいます。震災後、我慢に我慢を重ねて震災前の生活を取り戻そうと必死に頑張ってきたつもりでしたがW氏に言われた言葉で私の中の何かが切れた様な気がしました。私は精神を病んでいるのでしょうか？